

## 深江湾近辺史話

後藤 武夫

## (一) 深江港

別府市の海岸から沖の方を眺めると、左手の海岸に面し海中に突出した岬角が見える。それが深江の鼻であり、その鼻から入り込んだ所に深江港がある。名前の通りの深い入江で、入口は三丁、奥行は六丁ばかり、鵜ヶノ鼻と大崎の鼻とが南北を扼しているのであまり大きな船は這入れられない。明治以前の帆船ばかりの時は伊豫灘航行の船が必ず風待ちをする港であった。徳川時代の深江庄屋の覚書にも、『日向より南の船ども、季秋より仲春の頃までは、佐賀ノ関にただ泊ず、よく日より見て速見郡深江ノ港まで来りて泊る事なり、又、佐賀ノ関、臼杵、佐伯辺の船も直に灘には出ずして、皆この港にて風を待つて、灘をわたる事、昔よりしてしかり』と記されている。又、日出藩主木下侯の茶屋、別荘、娼楼もあったので、江戸参勤交代の節は必ずここに停泊するので御船手方の住いもあり、自然に船頭相手の茶屋娼楼も

出来て、賑かであったと伝えられている。

## (二) 深江の平家の公達伝説

風流武将と云えば源氏の武者にくらべて、平氏の方に多い。寿永四年のさる頃、平家の公達がこの深江港よりその附近の里に落のびて来ました。壇ノ浦の合戦に敗れた、平教次、平武光、平宗行は、その姿も哀れであった。平教次、同武光は清家の里に、宗行主従は宗行の里に、それぞれ 永らえて此の地に子孫を残している。清家に来た平教次は落武者の哀歌をのこして子孫に伝えている。

『旅の空うき思いこそ常よりも、

深江ノ浦の月ぞ身にしむ』

彈正忠平教次、とある。

この深江の里に落武者となって来た平家一族の因縁をたどって見ると、元より大神ノ庄百七十町は宇佐宮領で、日出津島七十町も宇佐宮領であった。日出津島の地頭職は平家の出で、鎌倉幕府の実権を握った北条相模守であった。又、近郷藤原井手村七十町の地頭職は、戸次太郎時親、真奈井野木乃井三十町の地頭職は、利根次郎頼親であった。この戸次氏は、大友左衛門尉重秀の出である。『重秀は鎌倉武者、亦

橋相模守重時縁座の好みを以て兵庫頭頼時まで四代の間を北条家に昵近し、何れも、諱の一字を免されて、従五位下に叙し、鎮西の評定象なり』由九州軍記、と云うほどで、平家一門との関係が深い、これによつて見ても、深江近郷に平家の公達の子孫が存続しても何等不思議でもないであろう。

### (三) 大神野木乃井、佐藤忠信の子孫

深江の隣村、大神野木乃井には、これ又平家と別に、源氏に従つて屋島、壇の浦の合戦で軍功を立てた、平家の強將、能登守教経の嫡矢にあたり、義経の身代りになつた忠臣、佐藤忠信の子孫が、元寇役の頃大分郡より移住していた。佐藤氏は奥州平泉、藤原一門の佐藤庄司であつたが、兄、継信と共に義経に従つて平家追討に参加していた。其の時若寇十六歳 忠信の長男小太郎忠春もこの合戦に参加していた忠春は豊後の国で平家追討の旗を上げた緒方三郎惟栄の許に源氏の軍使として派遣されていたので、父忠信の死を知らなかつた。緒方惟栄が宇佐宮をせめた時も忠春は参戦して軍議の評定に加わつてゐる。平家追討後、頼朝と、義経が不和となるや、豊後の緒方惟栄は竹田の岡城を築いて義経を迎えんとしたが、追物ノ浦で激風にあつて義経は豊後には

来なかつた。義経岡城入城の要請策も忠信の一子、忠春が豊後に早くより惟栄の許にいたので惟栄、忠春の合議の策であろう。由石垣佐藤系図、大分郡佐藤系図に依る。

その後、緒方三郎惟栄は沼田に配流されたので、緒方一族は分散した。小太郎忠春は、大野泰基に寄偶していたが、大友能直、豊後入国の時、大野泰基に従つて古庄重吉を向い討つたが敗れて龜石山にて割腹した。其の子忠直は幼なかつたが、母のふところに抱かれて落のびて、大神野木乃井に來りて任んでゐた。其の子小次郎忠直は建治二年大友因幡守親時のキ下に属して、弘安四年五月の元寇役には筑前博多の防備に出陣して戦功を立て、賞された。其の頃の真奈井野木乃井三十町の地頭職、利根次郎頼親は関東に在動していた關係で、佐藤忠直が地頭代として此の地を支配していた。豊後国志には『宝積寺は大神郷軒之井村に在り、建治中、佐藤縫殿介忠直の創む所、本尊を呼んで佐藤薬師と曰う。寺の前に水あり、佐藤川と名あり、蓋し、忠直は忠信の曾孫なり、嘗て來り此の地に寓す、其の居に清水あり、軒の前に涌出ず故に地名を呼んで軒之井と云う』と記されている。此の大神軒之井も、後世、日出藩となり浮島八幡宮を氏神として其の子孫は繁栄している。現在の日出町、佐藤眺字兄の宅は今もマドコロ(政所)と云つてゐる等、大神野木乃井地頭代政所に何か關係があるのではなからうか。い

づれにせよ、豊後の佐藤氏は忠信の後胤にしてその出ちは明かである。  
御此の稿にして不備の点は日出のマドコロ、佐藤暁学兄に御教示願え  
れば幸甚であります。

昭和四三・一・八

住所 別府市火売町四組（古殿荘盛營）

略歴 ①法政大学中退 ②旧陸軍中野学校卒

③（特務機関少佐）  
終戦時南方引揚 ④引揚後大分県巡查拜命

⑤現在別府今日新聞社朝日総務局長兼農薬委員・自治委員・  
民生委員・公民館主事

⑥著書 (1) 眼光・サービス読本

(2) 石垣原合戦記

(3) 妙好人妙喜尼伝 があり

(4) 稿本 豊臣秀頼父子生存説 等